

長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金 報告書

2026 年 6 月 17 日

国際経営学部国際経営学科 3 年

田中杏奈

はじめに

私は 2025 年 8 月から 2026 年 5 月までの 10 か月間に及ぶ 2 学期間をアメリカ合衆国ノースカロライナ州の University of North Carolina at Charlotte で交換留学をしました。本報告書では、現地大学について、学習内容、現地での生活、課外活動、そして留学を通じて得た学びの 5 つに分けて詳述いたします。

このような貴重な留学の経験を得られたのは、多くの方々のご支援とご尽力により成り立つものでありました。本奨学金の受給にあたり国際経営学部の教授方々、事務室の方々、そしてご支援をいただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。

現地大学について

ノースカロライナ大学シャーロット校(University of North Carolina at Charlotte)は、ノースカロライナ州の商工業・金融の中心都市であり、ニューヨークに次ぐ全米第 2 の金融都市として急成長している南東部の拠点都市であるシャーロット近郊に位置する大規模州立大学です。大都市ではないものの、大学からアップタウンまでは車や電車などの交通機関で 20 分、大学周りにはスーパーマーケットやファストフード店が立ち並ぶという比較的 to 生活のしやすい環境であるのが印象的でした。また、発展都市ということもあり、黒人、白人、ヒスパニックなど多様性のある学校で様々な国や地域出身の人々が多い印象でもありました。私は、記憶がない幼い頃にシャーロッ

トに住んでいたという背景があり、シャーロットという町がどのような場所なのかという自分の過去をたどるため、ノースカロライナ大学シャーロット校に留学することを決意いたしました。

学習内容

大学での授業は、教授が一方的に話す講義型授業に加え、生徒同士でのコミュニケーションが必要とされる生徒参加型授業が多かったのが印象的です。留学生であること関係なしに現地の学生と同じ生徒として授業を履修するにあたり、自分の能力以上の能力を求められることが多く自分自身の成長につながったと感じました。例えば、プレゼンテーションをするにあたって、他の生徒と同じように 5 分間のプレゼンテーションを個々で行った時に、ノンバーバルコミュニケーションが足りないと指摘された経験がありました。その経験から他の生徒は、トピックに対する理解度が優れていたのではなく、自分が伝えたいことを伝える自己表現能力が優れていたと本質を学ぶことができました。さらに、多くの授業では、トピックに対する意見やクラスメイトの考えに対する自分の意見が多く求められたのが印象的でした。英語でアカデミックな意見やエッセイを書くことは簡単なことではなく、自分の意見を伝えるために沢山の苦労を重ねながら課題をこなしていきました。このように、留学生だから免除や軽減などといったことが一切ない世界だからこそ、自分の能力以上の挑戦をする良い機会であったと共に英語力成長へとつながったと感じています。

現地での生活

現地での生活は、日本の大学生活とほとんど変わらない生活をしていました。自分の希望通りに組まれた授業に参加し、授業後は友達と遊んだり課外活動をしたりご飯を食べに出かけたりしていました。日本と違った点は、大学の中に大きなジムが

あり、空きコマや授業終わりに友達同士でジムに行く機会が多かった印象があります。また、車社会であるため車を保持している友達からお出かけに誘っていただくことも多々あり、週末はロードトリップをして隣の州まで旅行をしたり、課外活動の遠征をしたりしていました。寮については、4人とリビングやキッチンを共有しあう共同生活をしていました。シャワールームは2人で1つを共有だったものの、それぞれの個々の部屋は確保されていたので自分だけの空間が常にあったのでルームメイトと揉めるなどといったことは全くありませんでした。

課外活動

課外活動については、2つのインターナショナルプログラムとラクロスクラブに参加していました。特に印象に残っているのは、Global Gatewayというプログラムです。アメリカ、ベネズエラ、韓国人の計4人と共同生活をしながら、計17人の男女国籍混合グループで月に1回のカルチャーアクティビティと月に1回のソーシャルアクティビティを企画し互いのカルチャーを共有し合いました。この活動を通して様々な国々のカルチャーを知ることができただけでなく、自国のカルチャーについても改めて理解を深めることができました。ラクロスクラブでは、ラクロスというスポーツの楽しさを学びました。入部当初は、技術に差があるだけでなく、用語やルールの違いに対応しきれず苦勞をしていた経験もありました。そんな中、「失敗しても負けても関係ない、楽しんでラクロスできているならなんにも問題ない」という言葉をかけてくれました。その言葉をなぞるように失敗や成功関係なく常にラクロスを楽しんで自分の好きなようにプレーをしている姿に感銘を受けると共に、この言葉が自分自身に新たな視点を与えてくれました。このように、大学の授業では学べないような経験重視の課外活動というものが私の留学生生活を創造してくれたと感じています。

留学を通じて得た学び

留学を通じてグローバル社会で活躍するためには、新たなことに積極的にチャレンジし続けることと失敗を恐れないことが大切だと感じました。今まで挑戦したことのないことに挑戦して、成功するか失敗するかが大切なのではなく、新たに挑戦をして努力をしたことこそが、自分自身の成長につながると学びました。留学当初は、他人と英語を話すことに抵抗があり、授業以外は部屋にこもり、新たな環境に身を置くことから逃げていたのが現状でした。しかし、留学の価値を見いだせていない自分に対して嫌悪感を覚え様々なコミュニティに身を起し挑戦することを決意しました。最初は、相手が何を言いたいのかわからず、相手も自分が何を言いたいのかわからずのようになり失敗ばかりで何度もくじけそうになりましたが、一度成功経験をしたり、英語力を褒めてもらえたことがきっかけで自分に自信を持つことができました。中学から大学まで、義務教育をなぞるように周りと同じようにレールにしかれた人生を送っていたが、この挑戦した経験で自分に対する信頼、挑戦することの大切さと自分を受け入れてくれる周りの温かさを知ることができました。